

原 著

## 訪日旅行者の受診状況 ～世界遺産 富士山の麓の医療の現状～

山梨赤十字病院整形外科

大下 優介\* 八木 敏雄 平林 幸大  
石川 紘司 江 黒 剛 逸見 範幸

抄録：2013年6月に富士山が世界遺産に登録されて以降訪日観光客が増加しそれに伴い救急受診される症例臨床の現場で経験される。しかし、旅行者がどのような病態で受診されているのかの詳細な報告は無い。本研究の目的は、訪日旅行者の受診内容を調査し、今後の対策を検討する事である。2015、2016、2017年度に当院に受診された訪日旅行者を retrospective に調査した。それぞれの年度に受診された患者総数は154人、149人、171人であった。平均年齢は36歳（0-89）であり、男性223人・女性251人であった。受診時間は平日の一般診療時間内が205人（43.2%）であり、269人（56.8%）は夜間や休日祝日の受診であった。受診の原因となった疾患は感冒などの内科系疾患が168例、骨折や脱臼などの外傷が166例、膀胱炎や尿路結石などの泌尿器科系疾患が22例、不正性器出血などの婦人科疾患が21例で、小児科受診が64例であった。また来院時CPAが1例にあった。近隣住民であれば翌日まで経過を見ることが可能な症例も旅程のため、夜間の受診を余儀なくされている状態であった。一般的に入院精査を行っていたと考えられる症例も移動の予定などのため再診予定も立てられず応急処置のみとなっている症例もあった。海外からの訪日外国人の受診状況を調査した。夜間休日であっても、さまざまな疾患で受診されており Generalist としての対応が求められている現状であった。今後さらに外国人旅行者が増えると考えられ、その対策は急務である。

キーワード：訪日旅行者、救急受診、飛び込み出産、富士山、世界遺産

### 緒 言

当院は富士山の麓に位置するため、世界遺産に認定された後より海外からの観光客が増加してきている。それにともない急な体調不良や怪我などにより病院受診を余儀なくされる旅行者も増加してきている。しかしながら旅行者がどのような病態で受診を要しているかの報告は少ない。今回われわれは当院に受診された海外からの旅行者の傾向を調査した。

### 研究 方法

当院に2015年4月から2018年3月までの3年間に当院に受診した海外旅行者について Retrospective に調査した。それらの診療情報より年齢、性別、出身地域、受診経路、受診時間、受診理由について検討した。

### 結 果

受診総数は474名（男性223名、女性251名）平均年齢は36歳（0-89）であり、そのうち小児は106（男児69名、女児37名）名<sup>1)</sup>であった。患者の出身国はアジアが369名（77.8%）と最大であり、ヨーロッパ42名（8.9%）、北米34名（7.2%）、オセアニア24名（5.1%）、南米1名（0.2%）、不明4名（0.8%）であった（図1）。受診時間は平日の一般診療時間内が205人（43.2%）であり、269人（56.8%）は夜間や休日祝日の受診であった（図2）。来院時間は午前の診察時間内のやや早めの時間に来院されている症例が多い傾向であった。受診経路は93例（19.6%）が救急車を要請されており、1例（0.2%）はドクターヘリが要請されていた（図3）。受診の原因となった疾患は感冒などの内科系疾患が168例、骨折や脱臼などの外傷が166例、膀胱炎や尿路結石

\*責任著者

## 外国人旅行者の救急受診

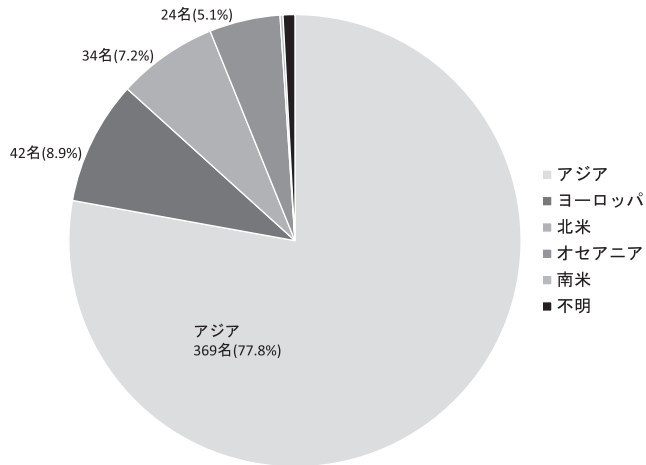


図 1 受診した患者の出身地域  
アジアからの観光客が多く、中国 175 人（36.9%）、台湾 54 人（11.4%）、タイ 42 人（8.7%）、マレーシア 17 人（3.6%）であった。

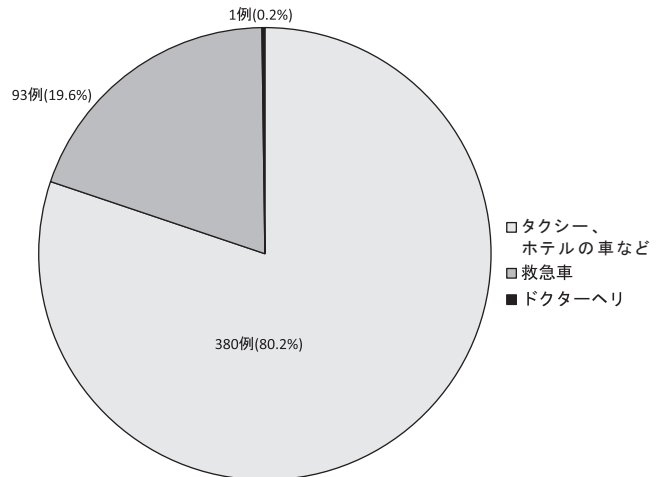


図 3 受診経路  
タクシーやホテルの車などを用いての受診が 380 例（80.2%）で大部分をしめた。94 例（19.8%）は搬送であった。1 例はドクターヘリが要請されていた。

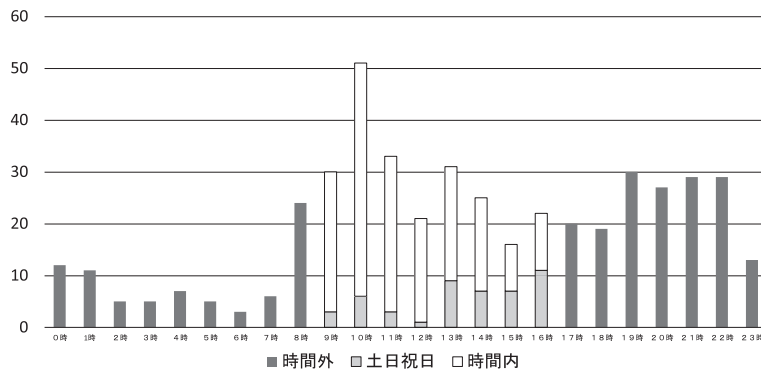


図 2 平日の一般診療時間内が 205 人（43.2%）、夜間や休日祝日の受診が 269 人（56.8%）であった。

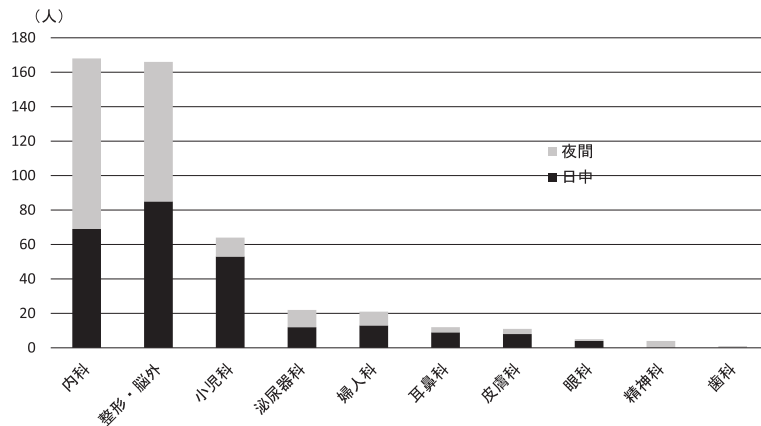


図 4 受診を要した疾患群  
内科系疾患 168 例（35.4%）、外傷 166 例（35.2%）でほぼ同数であった。

などの泌尿器科系疾患が22例、不正性器出血などの婦人科疾患が21例で、小児科受診が64例であった。また来院時CPAが1例にあり(図4)、緊急入院後に死亡退院となったものが1名であった。

#### 代表的症例1

25歳女性アジアからの旅行者。

金曜日15時来院。

妊娠を疑っていたが健診などは受けていない。

富士山5合目に向かうバスの中で破水となり、救急要請となる。妊娠週数不明であり精査加療目的に胎児とともに入院となった。

#### 代表的症例2

77歳女性アジアからの旅行者。

日曜日20時来院。

ホテルの階段にて転倒。体動困難のため救急要請され、当院搬送となる。レントゲンにて右大腿骨転子部子部骨折を認め入院。母国での手術希望があり、飛行機など搬送の段取りを行い7日後退院となった。

#### 代表的症例3

78歳女性アジアからの旅行者。

月曜日21時来院。

ホテルの脱衣所で卒倒。救急要請となる。救急隊到着時心停止であった。当院搬送となるが、改善無く死亡確認となった。

#### 代表的症例4

53歳男性北米からの旅行者。

土曜日23時来院。

富士山登山中、体調不良となる。救急要請され当院に搬送。高山病の診断にて補液となる。

#### 代表的症例5

69歳男性ヨーロッパからの旅行者。

土曜日7時来院。

胸部痛が誘因なく出現した。旅行会社を介して救急要請となる。来院時心電図にてV2-4のST上昇を認め、トロポニンT陽性であった。心筋梗塞の診断にて入院加療を行った。

### 考 察

訪日旅行中に怪我・病気になった旅行者は全体の6%に上り、そのうち、医療機関に行く必要性を感じた人は26%<sup>2)</sup>と報告されている。全体の1.5%が、訪日旅行中に怪我・病気になり、医療機関に行く必

要性を自覚していることになる。しかしながら受診される症例は限定的である。医療機関に行かなかった理由として、「日本の医療機関について必要な情報が得られなかった」「初めから行くのを諦めていた」とされ、受診を諦めた理由では「言語に不安があった」と「行く時間がなかった」が多いと報告<sup>2)</sup>されている。

本報告でも病院の場所が不明であるとの理由から救急要請されて搬送となった軽症の症例も認めた。また、ツアーの旅程の都合などから発症が日中であっても、夜間に来院されている症例があり、また旅程の都合で翌日には別の地域に移動されるため、専門医への再診も困難な症例も存在した。そのため、本邦の医療の情報を外国出身者にもわかりやすく説明したウェブサイトなどの医療情報提供のあり方を検討すべきと考えられた。言葉の壁によるコミュニケーションの困難を認め、当院では言語に対する対応として当院では翻訳機を常備し対応している。しかし、文化もことなることよりどの程度理解されているかの評価は困難である。2019年にラグビーワールドカップ、2020年にオリンピック・パラリンピック、2025年には万国博覧会などの開催が予定されており今後さらなる観光客の増加が想定されその対策は医療にも不可避である。

また、当地は山地であり富士山に登ると気温の低下や気圧の低下などによる高地特有の体調不良<sup>3)</sup>を来す症例も見受けられ、山を下るマウンテンバイクなどの競技や富士五湖でのアクティビティーに伴う怪我の受傷も日本人観光客と同様にあり国内でも必要とすべき対策に地域差はあるものと考えられた。

救急医療では、一般に、その病院の救急を含めた診療体制や周囲の医療機関のactivityを含めた立地状況によって、病院ごとに受診患者の内訳は異なる。しかしながら、当院の位置する二次医療圏には2つしか病院は存在せず、もう一つの病院と輪番制を取っている。そのため、本地域での受診のほぼ半数が当院に受診しており全体的な傾向を掴んでいると考えられた。詳細な「訪日外国人」の特徴をつかむ為には、同時期に受診した一般日本人との比較や、同時期にもう一つの病院に受診された症例を含めて地域での全症例を把握するなどが必要であり、今後さらなる検討が必要である。

出身地域による高山病や気温変化の体調不良、競

技・アクティビティーによる外傷などの受傷・受診割合などの検討も今後行っていく予定である。

本報告期間に出身地域特有の疾患についての判断が困難であった。マラリアや結核<sup>4)</sup>など迅速に検査困難な疾患の流行地からの患者では感冒との判断も困難な現状がある。また、一般的なら入院を勧めていた症例も旅程の都合により困難となっていた症例の存在があり、言語や文化も異なるため、どの程度までが自己責任と判断されるのかが不明であり、今後の課題と考えられた。

本邦では未検診の妊婦は「飛び込み分娩」とも言われ、母体や胎児についての情報が事前になく、本来なら妊婦健診の期間をかけて得るべき情報を短時間で検索・評価する必要がある、必然的に産科的異常の率も高くなり、感染症の可能性などから受け入れる医療機関側にも危険があり、非常にハイリスクな分娩<sup>5)</sup>とされている。本邦では外国人が増えている<sup>6)</sup>とされておりその対策も必要である。

代表的症例にあるように本邦で出生した症例は帰国のため当該大使館でパスポート作成などの問題や、死に至った症例の搬送など福祉相談員の介入を要する症例もあった。

観光客の多いこの地域では、当院だけでなく別の病院にも多言語の自動翻訳機を常備しており、言葉のコミュニケーションの不足部を補う試みが行われている。今後その評価も含めた検証を行う予定である。

## 結 語

当院の外国人観光客の受診状況を検討した。夜間

休日であってもさまざまな病態で受診されていた。

## 利益相反

本報告に対して開示すべきCOIはありません。

本報告は第54回日本赤十字社医学会総会(2018年11月)にて要旨を報告した。

謝辞 本報告に際し、診療に当たられた各科の先生方、看護スタッフに深謝します。

## 文 献

- 1) 大下優介, 佐野友昭, 小澤宏史, ほか. 小児の外国人観光客の受診の現状. 小児臨. 2019;72: 665-668.
- 2) 国土交通省観光庁. 訪日外国人旅行者の医療に関する実態調査. (2019年1月13日アクセス) [http://www.mlit.go.jp/kankocho/news08\\_000243.html](http://www.mlit.go.jp/kankocho/news08_000243.html)
- 3) Mieske K, Flaherty G, O'Brien T. Journeys to high altitude: risks and recommendations for travelers with preexisting medical conditions. *J Travel Med.* 2010;17:48-62.
- 4) 厚生労働省. 平成29年 結核登録者情報調査年報集計結果について. (2019年1月13日アクセス) [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00001.html)
- 5) 北村真理, 岩間憲之, 岡村智佳子, ほか. 当院における飛び込み分娩症例の検討. 仙台病医誌. 2008;28:15-19.
- 6) 菊池信正, 小澤克典, 戸松邦也, ほか. 飛び込み分娩症例の検討. *Kitakanto Med J.* 2003;53: 157-160.

## SURVEY OF EMERGENCY HOSPITAL VISITS BY FOREIGN TOURISTS IN JAPAN

Yusuke OSHITA, Toshio YAGI, Kodai HIRABAYASHI,  
Koji ISHIKAWA, Takeshi EGURO and Noriyuki HEMMI

Orthopedic Surgery Yamanashi Red Cross Hospital

**Abstract** — Since Mount Fuji was registered as a World Heritage Site, the number of tourists travelling to Japan has increased. This has also resulted in an increasing number of emergency hospital visits by tourists. The data on the necessity of emergency hospital visits by foreign tourists is lacking. In this study, we examined the medical records pertaining to emergency hospital visits by foreign tourists for the development of future policies and management measures. A retrospective survey of emergency hospital visits by foreign tourists from 2015 to 2017 was conducted. The total numbers of foreign tourists who visited hospitals as patients were 154, 149, and 171 in 2015, 2016, and 2017, respectively. The mean age was 36 (0–89) years, comprising 223 males and 251 females. The time of hospital visits were usual working hours for 205 patients (43.2%) and at night time or during holidays for 269 patients (56.8%). Emergency hospital visits were identified for the complaints of internal medicine requirement, such as a cold (168 cases); trauma, such as bone fracture and dislocation (166 cases), which together comprised the most common reason for the visit; urological diseases, such as bladder infection and urinary tract stone (22 cases), and gynecological diseases, such as abnormal vaginal bleeding (21 cases). Pediatric visits were also substantial (64 cases). There was one case of cardiopulmonary arrest upon arrival. The survey of emergency hospital visits by foreign tourists in Japan showed that the vast majority of patients visited the hospital for internal medicine and trauma, with more visits during hospital off hours than during working hours. As the number of foreign tourists is likely to increase, measures to meet the demand for emergency services are urgently needed.

**Key words:** visiting tourists, emergency consultation, no regular prenatal care, Mt. Fuji, World Heritage

〔受付：4月16日，受理：5月23日，2019〕